

筑波大学附属図書館特別展

江戸前期の湯島聖堂

—筑波大学資料による復元研究成果の公開—

甦るイメージ、草創期の湯島聖堂。
 どのような孔子像が祭られ、聖堂内部の礼拝空間は
 どのようなであったか？筑波大学に遺された湯島聖堂
 資料から在りし日を推理。そのイメージを学術研究
 の途次で広く公開し、新たな復元の道を探る。

展覧会期

2005年10月8日(土)~10月30日(日)

※休館日10月15日(土)・16日(日)

入場無料

※小学生以下は保護者同伴でご来場ください。

時間

平日 9:00~17:00

土日・祝日 10:00~17:00

会場

筑波大学附属図書館
 (中央図書館貴重書展示室)

主催/筑波大学芸術専門学群

筑波大学附属図書館

後援/史跡湯島聖堂財団法人斯文会

財団法人三菱財団

同時公開

昌平坂学問所日記 昌平坂学問所関係文書

狩野探幽筆「猿曳図」「野外奏楽図」

狩野尚信筆「李白観瀑図」「剡溪訪戴図」

記念講演会「湯島聖堂と美術」

守屋正彦(筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)

日時 10月13日(木) 13:30~15:00

会場 中央図書館集会室

※会期中ギャラリートークを予定しています。詳しくは電子展示のWebページを
 ごらんください。http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/



交通案内

★つくばエクスプレスつくば駅下車
 筑波大学中央行バス 第一学群棟前下車
 ★JR常磐線
 土浦・荒川沖・ひたち野うしく駅下車
 筑波大学中央行バス 第一学群棟前下車
 ★東京駅八重洲口より常磐高速バス
 つくばセンター行 つくばセンター下車
 筑波大学中央行バス 第一学群棟前下車
 ※できるだけ公共交通機関をご利用ください。



江戸前期の湯島聖堂

—筑波大学資料による復元研究成果の公開—

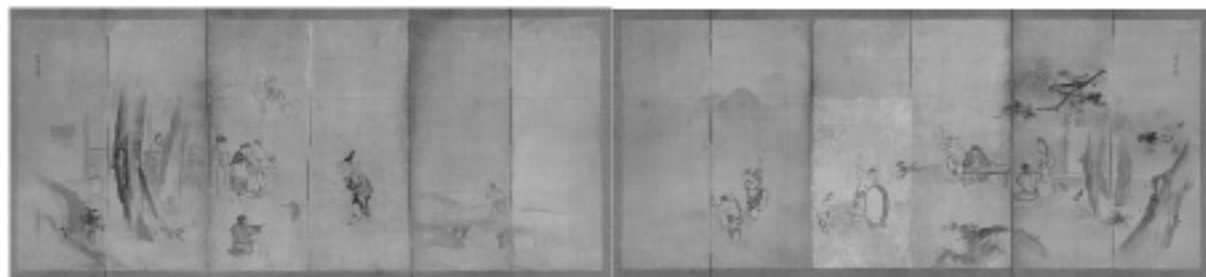
礼拝空間の復元



江戸前期の湯島聖堂大成殿、孔子像を祀る正面両翼に宋の儒者肖像各3幅、左右両壁には賢儒の群像が描かれた各8面の扁額が掛けられていた。それらは筑波大学附属図書館に《歴聖大儒像》6幅と《賢聖障子図》14面として伝来している。そのうち《賢聖障子》14面は湯島聖堂の礼拝空間を飾った狩野常信筆「賢儒像」16面の扁額の写し(2面欠失)と考えられ、その失われた2面を復元するための調査がはじまった。その過程で、今はなき礼拝の中心、肖像彫刻である孔子像の作者が明らかとなり、江戸前期に創建された湯島聖堂の初期における礼拝空間を想定することが可能となった。

筑波大学芸術30周年記念事業としてわれわれが目指した復元空間。その背景に幕藩体制下におけるヒエラルキーの生成を意図した將軍家、思想家、芸術家によるビジュアル・イメージが浮かび上がったのである。

狩野探幽、尚信の屏風絵、文書等の公開



2000年4月、筑波大学で狩野探幽、尚信の屏風絵が発見された。それは湯島聖堂と関係があるのだろうか。屏風絵を公開し、秘められた謎を解く。

湯島聖堂に併設された昌平坂学問所。学問所日記と関係文書もあわせて公開。

美術史、絵画、彫刻、CG。芸術教員組織のチームによる附属図書館所蔵資料を活用した復元研究。新しい研究のあり方がはじまった。

二〇〇五年一月、筑波大学に湯島聖堂
創立当初の礼拝空間のイメージがよみがえる。
—開学三〇周年を経た筑波大学に受け継がれていた江戸の歴史—